

2019年6月2日(日)／説教者：神谷武宏

説教：「完全な者となりなさい」

聖書：マタイによる福音書5:43～48

イエスは、《あなたがたも完全な者となりなさい》と教えているが、「完全な者」とは、どのような人のことを言っているのか？「完全な者」とは、原語で「テレイオス」という言葉で、もともと「終わり(テロス)」から来ていて、「終わりに達すること」という意味。“非の打ち所のない”というような「完全な者」ではなく、終わりまで「全うする者」、「この道を歩む者」という意味がある。

同じく48節のところにも《あなたがたの天の父が完全であられる》とあるように、まさに神こそが、私たちへの愛を「全うする方」である。45節のところでは、《悪人にも善人にも太陽を昇らせ、正しい者にも正しくない者にも雨を降らせてくださる》とあり、「完全な者」という意味が、「完全無欠」さを求める神であるならば、悪人は切り捨てられてしまうのではないか。しかし神は、私たちがたとえ悪人であっても、罪人であっても、また私自身が神を無視し、神を敵とした時であっても、神は、私たちへの愛を全うされるお方である。

もう一つ。イエスは「敵を愛しなさい」と言う。敵を愛するなんて事は、憎しみを抱く者が、その相手をお愛するなんて不可能に近いことのように思うが、何故“愛せよ”と言うのか？それは、神ご自身が先ず、そうされたからであろう。神をお愛そうが、憎もうが、無視しようが、十字架上で殺されようが…イエスは人々をお愛した。神の全うする姿に、愛に、私たちが背中を押されて、イエスの言葉に向き合いながら、時に私たちも、敵をお愛することが出来たり、出来なかつたりしながら、この難題に向き合うことが大事になるように思う。

この「敵を愛しなさい」という言葉は、原語で見ますと、頭ごなしの命令としては語られてはいない。ここはどちらかと言うと弱い命令形で、希望的な意味を込めた表現になる。直訳すると「あなたは隣人を愛するであろう、そして敵を憎むであろう。しかし私は希望します。敵をお愛し、自分を迫害する者のために祈ることを。」

私たちは、どこまでも不完全な者である。しかし、「イエスさま、ごめんなさい」とお詫びしつつ、ご一緒にこの道を歩んで行きたい。(神谷)